

編 修 趣 意 書

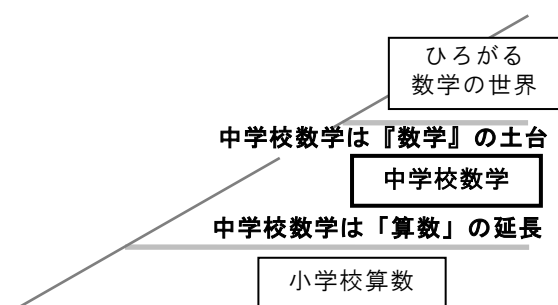
(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-89	中学校	数 学	数 学	第三学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	数学934	中学校数学 3		

1. 編修の趣旨及び留意点

中学数学が数学教育全体において果たす基本的役割を認識し、**既習事項からの円滑な接続**に留意した上で、**以後の数学学習の基盤が確立**できるように配慮した。

編集にあたっては、**数学的活動を通して、習得、活用、探究**の各場面を的確に設定し、**数学的知識や技能が幅広く身につく**ように意を用いた。



2. 編修の基本方針

以下の4項目を基本方針に据え、**なだらかな学力向上**を目指した。

1 基礎・基本が確実に身につく

平易な例による明解な説明と展開を心がける。
学び直しにも留意して学習の基盤を明確にするとともに、**十分な演習量を確保**して、**基礎・基本が確実に身につく**ようにする。

2 問題を解決する能力を高める

すすんだ問題にも自然に取り組めるように、教材の扱いやその配置を工夫して、**数学的思考力、問題を解決する能力を高める**。

3 生徒自らが考え主体的に学ぶ

数学的活動を通じた学習の場面を多く設定する。
段階を追ったていねいな説明と生徒の気づきや理解をうながす発問などにより、**生徒自らがすすんで考え、主体的に学べる**ように意を用いる。

4 生徒の興味・関心を喚起する

身近な話題を通して**生徒の興味・関心を喚起**させ、**数学的な見方・考え方のよさ**を知らせる。
巻末にあるコラムや問題演習によって、**数学が社会に果たす役割を実感**できるように配慮する。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前見返し	数学に関連する題材として、三尺玉花火を取り上げ、我が国の文化に触れる機会を設けた（第5号）。	前見返し
出発前のクイックチャージ	ふりかえり学習の場面を充実し、生徒自らがその理解に応じて学習できるように配慮した（第2号）。	4 ページ ～13 ページ
第1章 式の計算 ①多項式の計算 ②因数分解 ③式の計算の利用 ④素因数分解	展開の公式が、すでに学んだ公式を利用することでも導かれることを知り、その考えを自主的に活用できる能力を養う場面を設けた（第2号）。 この章で学んだ式の展開や因数分解の知識を活用し、計算をくふうして行ったり、具体的事例に反映したりする能力が身につくように配慮した（第1号）。 素数に関連する話題として、エラトステネスやユークリッドを取り上げることによって、他国の先人の知恵を学び、それを尊重する機会を設けた（第5号）。	23 ページ「やってみよう」 34 ページ ～36 ページ 43 ページ「やってみよう」
第2章 平方根 ①平方根 ②根号をふくむ式の計算	有理数・無理数や循環小数などに触れることによって、数のひろがりについての知識を深めようとする態度を養う機会を設けた（第1号）。 これまでの知識を活用することで、根号をふくむ式の乗法の正しい計算方法を考えようとする態度を養う機会を設けた（第1号）。	52 ページ ～53 ページ 55 ページQ
第3章 2次方程式 ①2次方程式 ②2次方程式の利用	既知の方程式で解ける問題と解けない問題を取り上げることによって、未知の方程式を学ぼうとする自主性が養われるような場面を設定した（第2号）。 2次方程式の誤った解き方に触れることによって、正しい計算方法を考えようとする態度を養う機会を設けた（第1号）。 この章で学んだ2次方程式の知識を活用し、数に関する問題や具体的事例に反映できる能力が身につくように配慮した（第1号）。	72 ページ ～73 ページ 77 ページQ 87 ページ ～89 ページ
第4章 関数 $y=ax^2$ ①関数 $y=ax^2$ ②関数 $y=ax^2$ の利用	2乗に比例する関数の比例定数について、その符号の変化によって生じるグラフの相違点を、自らの考えによって探し出す機会を設けた（第2号）。 この章で学んだ2乗に比例する関数の知識を活用し、具体的事例に反映できる能力が身につくように配慮した（第1号）。	102 ページQ 113 ページ ～114 ページ

<p>第5章 相似</p> <p>①相似な図形 ②平行線と線分の比 ③面積の比, 体積の比</p>	<p>相似な図形の性質が一般的に成り立つことをすじ道立てて明らかにすることで, 真理を求めることとその根拠を明らかにする能力が身につくように配慮した(第1号)。</p> <p>この章で学んだ相似の知識を活用し, 具体的事例に反映できる能力が身につくように配慮した(第1号)。</p>	<p>(章全体) 122 ページ ～155 ページ</p> <p>134 ページ ～135 ページ</p> <p>144ページ「考えよう」</p>
<p>第6章 円</p> <p>①円</p>	<p>角度を測ったり図形の性質を利用したりする活動によって, 円周角の定理を見いだす場面を設定した(第1号)。</p> <p>この章で学んだ円の知識を活用し, 接線の作図や相似に絡んだ問題を解決する能力が身につくように配慮した(第1号)。</p>	<p>160 ページQ</p> <p>171 ページ ～172 ページ</p>
<p>第7章 三平方の定理</p> <p>①三平方の定理 ②三平方の定理の利用</p>	<p>古代エジプトの三平方の定理の活用を取り上げたり, ピタゴラスを紹介したりすることによって, 他国における数学の知識に触れ, 尊重する機会を設けた(第5号)。</p> <p>この章で学んだ三平方の定理の知識を活用し, 具体的事例に反映できる能力が身につくように配慮した(第1号)。</p>	<p>180 ページ, 183 ページ</p> <p>201 ページ「やってみよう」</p>
<p>第8章 標本調査</p> <p>①母集団と標本</p>	<p>題材として選挙, 国勢調査などを取り上げ, 社会の形成に参画することを考える場面を設けた(第3号)。</p> <p>鯉に負担をかけずに行う標本調査を示すことによって, 生命を尊ぶ場面を設けた(第4号)。</p>	<p>204 ページ</p> <p>211 ページQ</p>
<p>数学探検</p>	<p>生徒の興味・関心をのばしたり, 数学を学ぼうとする意欲を喚起したりするような題材を取り上げた(第1号)。</p> <p>曲尺や和算の話題を取り上げることによって, 我が国の先人たちの知恵を学び, それらを尊重する機会を設けた。同様に, パルテノン神殿やミロのビーナスの話題を取り上げることによって, 他国の先人たちの知恵を学び, それらを尊重する機会を設けた(第5号)。</p> <p>三平方の定理の証明を複数取り上げることによって, それらの考えを理解する能力や多様な見方ができる能力を養う機会を設けた(第1号)。</p>	<p>215 ページ ～224 ページ</p> <p>216, 220, 221 ページ</p> <p>218, 219 ページ</p> <p>222, 223 ページ</p>
<p>ぐんぐんのぼそうチャレンジ編</p>	<p>本文の内容を深めるための問題を充実させ, 幅広い知識と教養が身につくように配慮した(第1号)。</p>	<p>229 ページ ～268 ページ</p>

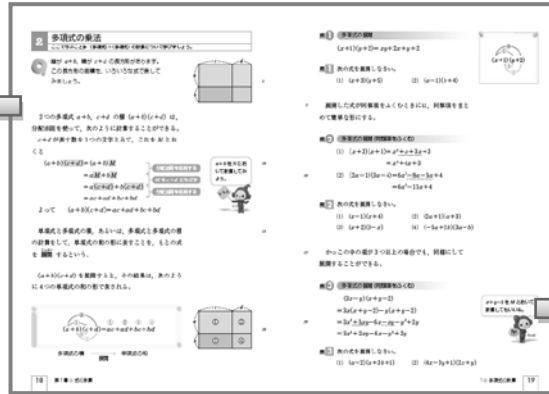
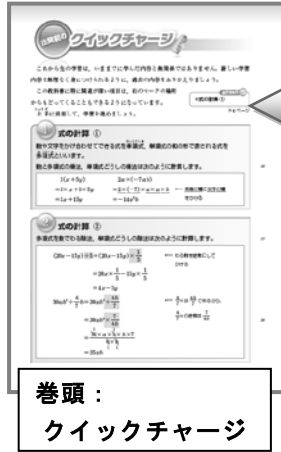
4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ① 教科書を機能的な3部構成とした。個々の生徒に対応して、スムーズに学習が進められるように配慮した。

本文の学習の前に
ふりかえり学習に

本文の学習

本文の学習の延長に



巻頭：
クイックチャージ

巻末：ぐんぐんのぼそう
チャレンジ編

- ② 基本方針ののっとり、以下の点に特に意を用いた。

意を用いた内容	該当箇所
<p>基礎・基本が確実に身につく</p> <p>平易な例による明解な説明と展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自らがすすんで学習する際にも容易に理解できるよう、例・例題とその解説や解をていねいにした。 「問」は平易な問題を中心に構成し、本文の内容が確実に身につけられるように留意した。小問の中で、難易度が上がる問題には<u>三つ葉マーク</u>を入れた。また、一部の例については<u>完全反復問題</u>を与え、なだらかに学習ができるように配慮した。 項目初めには、「<u>ここで学ぶこと</u>」として、その項目で学ぶ内容や目標を示し、生徒の学習意欲の向上が図れるようにした。 <p>学び直しにも留意</p> <ul style="list-style-type: none"> 巻頭の「クイックチャージ」では、既習の基本事項を10ページにまとめて取り上げた。単なる内容の羅列ではなく、必要に応じて問題演習ができるように、基本的な問題をまとめた「<u>ドリルでチャージ!</u>」も用意した。 ふりかえり学習が本文で必要となる場面では、クイックチャージへの参照ページを示した。また、当該学年の既習事項と密接に関連するような箇所についてもその参照ページを示した。 数項目ごとに配置されたまとめの問題「<u>確かめよう</u>」や巻末チャレンジ編の「<u>確認しよう!</u>」には、表題と本文の参照ページを入れ、学習事項を見返す際に役立つようにした。 <p>十分な演習量を確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊富な問題によって、基本的な知識や技能の確実な定着を図ることができるようにした。これは、本文内の「問」、まとめの問題「確かめよう」、章末の「基本問題」、巻末チャレンジ編の「確認しよう!」など多数の場面で実現している。 	<p>下線部についての 具体的箇所</p> <p>16 ページ問1 ほか 27 ページ例1, 2 ほか</p> <p>16 ページほか、項目初めのすべて。</p> <p>4~13 ページ 10~13 ページ</p> <p>16, 107 ページほか 38, 58 ページほか</p> <p>25, 54 ページほか 230, 235 ページほか</p> <p>40, 68 ページほか</p>

<p>問題を解決する能力を高める</p> <p>数学的思考力，問題を解決する能力を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・章末の「<u>章の問題 A</u>」，「<u>章の問題 B</u>」では，標準的なものを中心に，様々な問題を集めた。これらの問題を通して，章全体にわたる学習事項の理解を確実にすることができるようにした。 ・応用の幅の広い分野については，少しすすんだ題材でも代表的なものを取り上げ，もれなく学習できるように配慮した。 ・「<u>考えよう</u>」では，本文の学習に関連した興味深い問題を取り上げ，知識や理解がより深まるように配慮した。 ・巻末チャレンジ編の「<u>深めよう!</u>」では，応用力や理解力が高まるような問題を例題つきで取り上げた。 ・その学年で学習する範囲を越えた「<u>発展</u>」は，数学の体系的な流れを考へて必然性のある箇所に配置した。生徒の意欲に応じて扱うことで，その後の数学につながる内容を抵抗なく学ぶことができる。 	<p>41, 42 ページほか 各章末</p> <p>144 ページ</p> <p>233, 238 ページほか</p> <p>71, 121, 156, 177 ページ，後見返しほか</p>
<p>生徒自らが考え主体的に学ぶ</p> <p>数学的活動を通じた学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動をうながすような場面を多く設定した。 学習のきっかけとなる「<u>Q</u>」，議論や作業を通して考える「<u>Q</u>」，「<u>考えよう</u>」，「<u>やってみよう</u>」，「<u>章とびら</u>」に加え，「<u>説明文</u>」や「<u>問</u>」でも数学的活動を通して学習ができるようにした。 ・さらに，数学的活動に直接関連する問や小項目には，それとわかるマークをつけた。 <ul style="list-style-type: none"> ■「学んだことから数や図形の性質を見いだし発展させる活動」 ■「数学を日常生活や社会で利用する活動」 ■「数学的な表現を使って，すじ道だった説明で伝え合う活動」 <p>生徒自らがすすんで考え，主体的に学べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文のていねいな説明と，生徒の気づきをうながす発問などにより，生徒自らがすすんで取り組み主体的に学習できるようにした。 ・式変形は詳しく記載するだけでなく，その過程にも説明をつけた。 例・例題には表題をつけ，自学自習を助けるようにした。 	<p>16, 26 ページほか 23, 53, 86 ページ ほか多数</p> <p>87, 141 ページほか</p> <p>34, 87 ページほか</p> <p>88, 104 ページほか</p> <p>17 ページ例 2 ほか</p>
<p>生徒の興味・関心を喚起する</p> <p>身近な話題を通して生徒の興味・関心を喚起する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>章とびら</u>では，身近な話題を扱い，数学への興味をもてるように配慮した。 ・コラムにあたる「<u>数学探検</u>」では，既習事項を活用してものごとを考えたり，身のまわりの事象から数学を見いだしたりできるような話題を取り上げた。 <p>そのほか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要事項は枠で囲んだり下線をひいたりして，以後の学習の基礎となる概念の確実な定着に努めた。 ・図版やイラスト・写真を多数挿入し，視覚的にも理解が容易になるようにした。 図やグラフはなるべく大きくして理解を助けるとともに，かき込みにも配慮した。 ・活字は大きくて見やすいもの，用紙は堅牢で白色度を適度に抑えたものを採用した。 ・配色は，カラーユニバーサルデザインに配慮した。 ・巻末に1, 2 年の復習問題を設けることで中学校で学習した内容が確認できるようにした。 	<p>14, 15 ページほか 各章とびら</p> <p>215～224 ページ</p>

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-89	中学校	数 学	数 学	第三学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	数学934	中学校数学 3		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1. 基本的な知識や技能を確実に身につけることを目標に、既習事項との接続ならびに各学習事項の体系に留意した。

●クイックチャージ

巻頭に配置したページで、新しい学習事項の理解に必要となる計算の仕組みや重要事項をふりかえることができるようにした。

また、このクイックチャージを利用することで、基本的な問題による学びなおしも可能となる。

●ふりかえりマーク

既習事項と密接に関係する場面に登場するマークを設定した。参照ページが示されているものは、必要に応じて前にもどって確認ができるようにした。

2. 数学的活動を通して理解が深まるよう、教材の選定、配列に意を用いた。

●章とびら

生徒が興味をもつような内容や、その章の学習事項をイメージできるような題材を取り上げた。

●Q, Q

Qは、新しい学習内容のきっかけとなる問いかけ、Qは、議論や作業を通して、新しいことがらを見いだしたり、身のまわりの問題を解決したりするための題材。周囲の人とも話し合いながら学習を進めることができるようにした。

●見つけよう、活用しよう、伝え合おう

次の数学的活動を含む問や項目に、関連するマークをつけた。

「学んだことから数や図形の性質を見いだし発展させる活動」

「数学を日常生活や社会で利用する活動」

「数学的な表現を使って、すじ道だった説明で伝え合う活動」

●やってみよう

調べたり、試したり、見つけたりする活動を通して、数学のよさを学ぶことができる話題やことがらを枠囲いで示した。

●考えよう

いろいろな考え方をすることで、学習事項がより深まる問題を扱った。

●数学探検(コラム)

日常生活に密着した話題や、すすんだ数学にもつながる話題で構成されたページで、数学の世界がひろがっていることを実感できるようにした。

3. 基本的な概念の理解を深めるとともに、数学的な見方・考え方のよさを実感するため、知識・技能の習得とそれを活用する場面とのバランスに配慮した。

また、生徒自らがすすんで取り組めるよう、単純平明で理解しやすい説明、展開を第一とした。

●ここで学ぶこと

項目の初めに、その項目で学ぶことや目標を示して、学習の見通しが立ちやすくなるように配慮した。

●例、例題

「例」は学習する内容を理解するための具体例、「例題」は学習する内容に関する代表的な問題で、解答例とともに示した。例、例題にはともに、表題をつけた。

●反復問題

例と同じタイプの反復問題を必要に応じて扱った。これによって例の内容をしっかりと身につけることが期待できる。

●問

本文の内容を身につけるための問題で、例、例題の確認ができるようにした。若干発展的な内容の問題には三つ葉マークをつけ、区別が可能なようにした。

4. 生徒自らが取り組む問題を平易なものからやや発展的なものまで幅広く網羅することで、基本的な理解を確実なものにするとともに、いろいろな課題を解決する能力が身につくように配慮した。

●確かめよう、基本問題

「確かめよう」は、その項目の内容をしっかりと身につけるための確認問題で、本文の関連ページにもどれるようになっている。

「基本問題」では、その章において確実に身につけてもらいたい基本的な問題を取り上げた。

●章の問題A、B

その章の内容をより深く身につけるための総合問題を扱った。程度に応じて問題AとBにわかれているので、生徒に応じた与え方ができるようにした。

●ぐんぐんのばそうチャレンジ編

基礎・基本の徹底と応用力の育成を目指したページで、巻末に配置してある。「基本のまとめ」にその章の基本事項を示し、「確認しよう！」でその章の基本的～標準的な問題を、「深めよう！」で応用力を高めるための問題をそれぞれ扱った。「深めよう！」では例題をつけ、自学自習も可能なように配慮した。

●知識を活用しよう

身につけた知識や考え方を活用することで、身のまわりの問題を解決できるような課題を与えた。

●発展

学習指導要領上は当該学年の範囲外の内容である。生徒の興味に応じて扱うことで、さらにすすんだ数学に触れ、理解を深めることのできる題材を取り上げた。

そのほか

●ノートづくり方

ノートをとる際の注意点を明記したページを設けた。また、本文内において、ノートをとる際に注意したいことがらがあった場合には、NOTE マークとともに示した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1章 式の計算 ①多項式の計算 ②因数分解 ③式の計算の利用 ④素因数分解	A 数と式 (2) ア 単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算をすること。 イ 簡単な一次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすること。 $(a+b)^2=a^2+2ab+b^2$ $(a-b)^2=a^2-2ab+b^2$ $(a+b)(a-b)=a^2-b^2$ $(x+a)(x+b)=x^2+(a+b)x+ab$ ウ 文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明すること。 内容の取扱い (2)などに関連して、自然数を素因数に分解することを取り扱うものとする。	14ページ ～43ページ 38ページ ～39ページ	19
第2章 平方根 ①平方根 ②根号をふくむ式の計算	A 数と式 (1) ア 数の平方根の必要性和意味を理解すること。 イ 数の平方根を含む簡単な式の計算をすること。 ウ 具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすること。	44ページ ～70ページ	15
第3章 2次方程式 ①2次方程式 ②2次方程式の利用	A 数と式 (3) ア 2次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解すること。 イ 因数分解したり平方の形に変形したりして2次方程式を解くこと。 ウ 解の公式を知り、それを用いて2次方程式を解くこと。 エ 2次方程式を具体的な場面で活用すること。 内容の取扱い (3)については、実数の解をもつ2次方程式を取り扱うものとする。 (3)のイについては、 $ax^2=b$ (a, b は有理数) の2次方程式及び $x^2+px+q=0$ (p, q は整数) の2次方程式を取り扱うものとする。 因数分解して解くことの指導においては、内容の「A 数と式」の(2)のイに示した公式を用いることができるものを中心に扱うものとする。また、平方の形に変形して解くことの指導においては、 x の係数が偶数であるものを中心に扱うものとする。	72ページ ～93ページ 72ページ ～93ページ 79ページ ～81ページ 76ページ ～78ページ	15

<p>第4章 関数 $y=ax^2$</p> <p>①関数 $y=ax^2$</p> <p>②関数 $y=ax^2$ の利用</p>	<p>C 関数</p> <p>(1) ア 事象の中には関数 $y=ax^2$ としてとらえられるものがあることを知ること。</p> <p>イ 関数 $y=ax^2$ について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解すること。</p> <p>ウ 関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象をとらえ説明すること。</p> <p>エ いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解すること。</p>	<p>94ページ ～120ページ</p>	<p>15</p>
<p>第5章 相似</p> <p>①相似な図形</p> <p>②平行線と線分の比</p> <p>③面積の比，体積の比</p>	<p>B 図形</p> <p>(1) ア 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解すること。</p> <p>イ 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめること。</p> <p>ウ 平行線と線分の比についての性質を見だし，それらを確かめること。</p> <p>エ 基本的な立体の相似の意味と，相似な図形の相似比と面積比及び体積比の関係について理解すること。</p> <p>オ 相似な図形の性質を具体的な場面で活用すること。</p>	<p>122ページ ～155ページ</p> <p>(オは，134ページ～135ページで取り上げている)</p>	<p>23</p>
<p>第6章 円</p> <p>①円</p>	<p>B 図形</p> <p>(2) ア 円周角と中心角の関係の意味を理解し，それが証明できることを知ること。</p> <p>イ 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること。</p> <p>内容の取扱い (2)に関連して，円周角の定理の逆を取り扱うものとする。</p>	<p>158ページ ～176ページ</p> <p>166ページ ～169ページ</p>	<p>10</p>
<p>第7章 三平方の定理</p> <p>①三平方の定理</p> <p>②三平方の定理の利用</p>	<p>B 図形</p> <p>(3) ア 三平方の定理の意味を理解し，それが証明できることを知ること。</p> <p>イ 三平方の定理を具体的な場面で活用すること。</p>	<p>180ページ ～201ページ</p>	<p>13</p>
<p>第8章 標本調査</p> <p>①母集団と標本</p>	<p>D 資料の活用</p> <p>(1) ア 標本調査の必要性和意味を理解すること。</p> <p>イ 簡単な場合について標本調査を行い，母集団の傾向をとらえ説明すること。</p>	<p>202ページ ～214ページ</p>	<p>7</p>
計			<p>117</p>

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-89	中学校	数 学	数 学	第三学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	数学934	中学校数学 3		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項
71	$\sqrt{2}$ が無理数であることの証明	1	2 内容 A 数と式 (1) ア 数の平方根の必要性と意味を理解すること。 イ 数の平方根を含む簡単な式の計算をすること。
121	放物線と直線の交点の座標	2	2 内容 C 関数 (1) イ 関数 $y=ax^2$ について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解すること。
156, 157	三角形の重心と内心	1	2 内容 B 図形 (1) イ 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめること。 ウ 平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめること。
177~179	円に関するいろいろな性質	1	2 内容 B 図形 (2) ア 円周角と中心角の関係の意味を理解し、それが証明できることを知ること。 イ 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること。
239	式の値 例題 2, 問題 16, 17	1	2 内容 A 数と式 (1) イ 数の平方根を含む簡単な式の計算をすること。
248	放物線と直線の交点の座標 例題 3, 問題 9	2	2 内容 C 関数 (1) イ 関数 $y=ax^2$ について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解すること。
249	放物線と直線がつくる図形 例題 4, 問題 10	2	2 内容 C 関数 (1) イ 関数 $y=ax^2$ について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解すること。
264	直角三角形と円の接線 例題 1, 問題 11	1	2 内容 B 図形 (2) イ 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること。 (3) イ 三平方の定理を具体的な場面で活用すること。

後見返し	多項式の計算	1	2 内容 A 数と式 (2) イ 簡単な一次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすること。 $(a+b)^2=a^2+2ab+b^2$ $(a-b)^2=a^2-2ab+b^2$ $(a+b)(a-b)=a^2-b^2$ $(x+a)(x+b)=x^2+(a+b)x+ab$
	分母の有理化	1	2 内容 A 数と式 (1) イ 数の平方根を含む簡単な式の計算をすること。
	2次方程式	1	2 内容 A 数と式 (3) ウ 解の公式を知り、それを用いて二次方程式を解くこと。 3 内容の取扱い (3)については、実数の解をもつ二次方程式を取り扱うものとする。
	関数 $y=ax^2$	1	2 内容 C 関数 (1) ア 事象の中には関数 $y=ax^2$ としてとらえられるものがあることを知ること。 イ 関数 $y=ax^2$ について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解すること。
	三平方の定理	1	2 内容 B 図形 (3) ア 三平方の定理の意味を理解し、それが証明できることを知ること。 イ 三平方の定理を具体的な場面で活用すること。

(発展的な学習内容の記述に係る総ページ数 13)

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年でも扱うこととされていない内容